キャラクター名: シャルロッタ・ロドクルーン

プレイヤー名:

メインクラス	ウォーリア	**Lv.1:**		**レベル**	2
サポートクラス	グラディエーター	**Lv.1:**	グラディエーター	**性別**	女
称号クラス				**年齢**	17
種族	ネヴァーフ			**境遇**	没落
出自（効果）	騎士			**目標**	無目的

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	14	20	7	8	7	9	6
ボーナス	4	6	2	2	2	3	2
クラス修正	1	2	1	0	0	1	1
他修正							
能力値	5	8	3	2	2	4	3

HP	47
MP	33
フェイト	5

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	トライデント	至近	0	10	0	0	0	-2	0
左手									
頭部	ホーンドヘルム				-2	3			
胴部	レザージャケット					4			-1
補助									
装身具	手入れ道具			1					
能力値			8	0	3	0	4	5	10
スキル									
その他									
総計(右)			8	11	1	7	4	3	9 m
総計(左)									
総計(両)									
ダイス数			3 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	2			2	+ 2 d
トラップ解除	8			8	+ 2 d
危険感知	2			2	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
MPポーション*3	
HPポーション*1	

現在重量： 9		
最大重量： 28	所持金： 60	預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
テクニックマスター	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果：	器用基本値+3							
バッシュ	2	4	メジャー	武器	単体	命中	（11）	
効果：	武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]							
アームズマスタリー：槍	★		パッシブ					
効果：	命中+1 d							
エキサイトバトル	2		パッシブ				決戦状態	
効果：	DM+SLd							
ラストブロウ	2		DR直前		自身	自動	決戦状態 シーン	
効果：	DM+SL*3d							
ワンオンワン	★	3	セットアップ		自身	自動		
効果：	決戦状態扱いにする。攻撃対象を「※単体」に変更、シーン終了まで							
エンラージリミット	1		パッシブ					
効果：	所持重量が筋力基本値*2に							
トレーニング：器用	1		パッシブ					
効果：	器用基本値+3							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

とある国に、『忠実なる騎士の家系』なんて言われる家…ロドクルーン家がありました。その国では様々な種族が混在しており…この家も、ネヴァーフの家系です。
ネヴァーフながらも男女関係なくその家系の者は高い戦闘能力を持ち、戦場に出れば輝かしい戦果を残す。少々珍しいことに誰も錬金術などといったものには手を出さず、剣を、槍を、斧を取り戦うのです。
…彼女、シャルロッタも例外ではなく。稀有な槍の才能を持っていたのだとか。尤も…それが国のために振るわれることはありませんでした。
彼女が12になった日、それまでの日常は泡沫のように消える。
ロドクルーン家が重用されていること、その戦果に…いえ、それも一因でしょうが、今ではわかりません。ネヴァーフだったからなのかもしれません。
ヒューリンの…ニンゲンの嫉妬、羨望、嫉視とは…醜悪で凄惨なものです。
流石の一騎当千の騎士たちも、謀略が交錯する世界では無力でした。存在しない失態、身に覚えのない罪、そして…。
斯くして彼女の父たる当主は死に、ほかの家族も散り散りに。…きっと死んだのだと彼女は云う。
…彼女自身は？さて、死んだほうがましだったか…あるいは命があるだけマシか？それは彼女自身が決めることで。
ニンゲンの悪意に底はありません。彼女は…所謂闘技場に連れてこられました。なぜ彼女だけだったのか？…他にもいたかもしれませんよ？
闘技場といっても、まともなモノであるはずがありません。"水の街"クラン＝ベルにあるような華やかなものとは違い…ヒト同士の殺し合いでした。
騎士だって敵国の人を殺すでしょう。やっていることは変わりません。…本当に？
彼女はそれでも諦めませんでした。生きて、いきて…復讐を果たすつもりだったのです。
右手に槍を持ちました。左手に盾を持ちました。防具なんて最低限でした。乱戦の中でも一対一を生み出しました。
そうして戦い続け…5年。そんな日々も終わります。
復讐できたのかって？…それならどれほどよかったか。死んだのか？…まさか、今も生きてますよ。生きているだけですが。
奇しくも17になった日、傍迷惑な"勇者様"はやってきました。
国を正すために革命を起こし、わるい貴族をたおし、裏闘技場もつぶしたのです！さすがは勇者様、英雄様だ！……反吐が出る。
『辛かったね。これからは戦わなくていいんだよ』…五月蠅い。
『――――で平和に暮らそう！きっと楽しいよ！』…煩い。